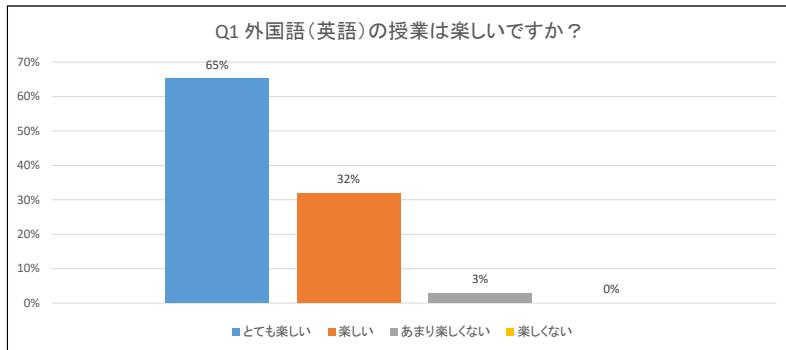
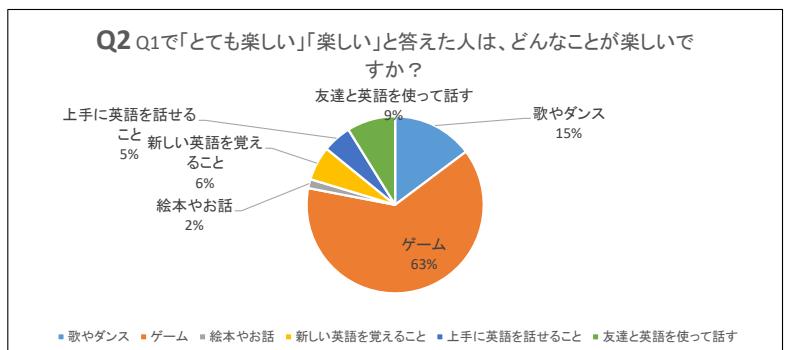


令和6年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(当尾小)



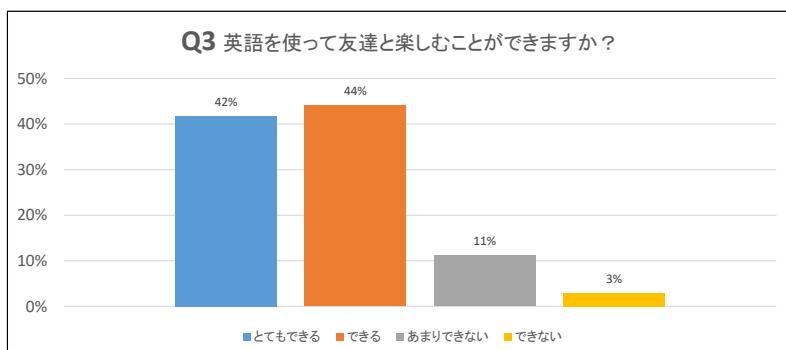
【Q1について】

外国語(英語)の授業の「楽しさ」については、97%の児童が肯定的に回答している。外国語(英語)という教科に本来備わる特性による楽しさに加え、授業方法の工夫やALTの活用等により、高い割合を示していることが考えられる。「楽しくない」と否定的な回答をした児童も各学年に数名見られるので、そう回答した児童にも目を向け、楽しくない要因を明確に分析し、より工夫した授業を創造しなければならない。



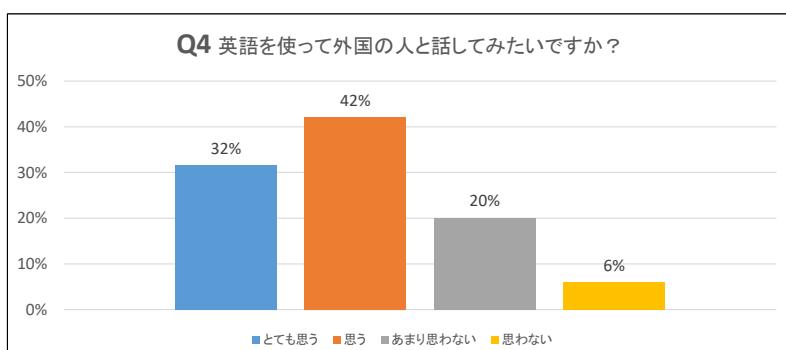
【Q2について】

楽しさを肯定的に回答した児童において、その楽しさの要因を「歌やダンス」「ゲーム」と回答している児童が8割程である。児童が本来興味関心を示しやすい「歌やダンス」「ゲーム」などを授業に取り入れることで、外国語(英語)の楽しさを感じている。新しい英語を覚えたり、英語を上手に話したり、友達と英語を使って話したりすることなど英会話本来の楽しさが実感できるよう、各学年の発達段階に応じながら、より工夫した授業改善が必要である。



【Q3について】

英語を使って友達と楽しむことに対して、86%の児童が、肯定的に回答している。授業においても毎時間の目標に即した会話文を用い、積極的に友達との会話を楽しむ場面は多く見られる。反面、14%の児童が英語を使って友達と楽しむことに対して、否定的な回答をしており、学年間によても差は大きい。その要因はスキル的な面にあるのか、情意的な面にあるのかを把握し、学年・学級に応じた対策を講じなければならぬ。



【Q4について】

英語を使って外国人の人と話すことに対して、74%の児童が肯定的に回答している。決して低い数値ではないが、Q3と関連して「友達とはできる」が「実際に外国人の人とはなかなかできない」という児童の意識の差が数値として表れているものと考えられる。ALTとの交流を通して、伝わったという達成感を感じさせたり、外国語や外国の文化への興味・関心を高めていく必要がある。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】
ほとんどの保護者は、外国語(英語)の授業の大切さ、あるいは子供たちの将来を見据えた上での英会話の大切さをより実感している。また外国語(英語)の授業参観を望む保護者も多く、外国語(英語)授業についての興味・関心は高い。

【考察・今後の展望等】
英語専科やALT、担任とより深く連携を図り、児童の実態に即し、効果的な授業方法の工夫改善を図っていく。校内研修を中心に、児童が楽しくかつ英会話のスキルがさらに上達できる授業を今後も継続して創造していく。また、保護者や地域の方々に外国語の授業を公開していく。